

みえグローバル学生大使 活動報告書

令和8年4月7日

西川 輝

1. 活動目的

世界中から多様な人々が集まり、経済・文化の中心地であるアメリカ・ニューヨークでの自発的な PR 活動と、地元・三重県で開催された世界的モータースポーツイベント「F1日本グランプリ2026」における海外来客者への対応を実施しました。

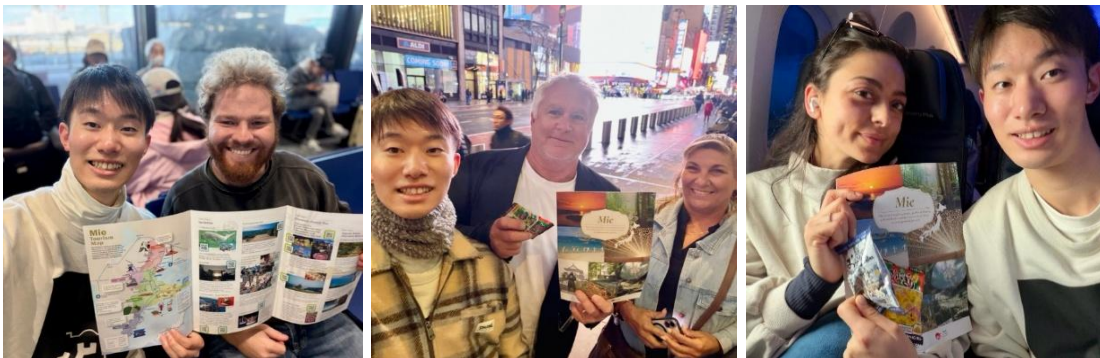
“外の世界へ出向いて伝える経験”と”内の世界で迎え入れる経験”の双方向からのアプローチを通じて、三重県の国際的な認知度向上を図るとともに、私自身の多文化共生への理解をさらに深め、今後のグローバルな活動の糧とすることを目的としました。

2. 主な活動内容

① ニューヨークでの三重県プロモーション（活動期間：3月12日～3月17日）

世界中から多様な人々が集まるニューヨークの空港や、多くの人が行き交う活気あふれる市街地において、持参した三重県の観光パンフレットを用いた PR 活動を行いました。また、三重県のお菓子で日本らしさのある米菓「おにぎりせんべい」の試食・配布もあわせて実施しました。醤油の香ばしい味わいは現地の方々にも大変好評で、「食」というアプローチから入ることで言葉の壁を越えて自然な笑顔を引き出し、コミュニケーションの素晴らしいきっかけを作ることができました。

パンフレットを使って三重県の魅力を伝える際には、直接英語での対話に挑戦しました。日本人の精神的支柱とも言える「伊勢神宮」に代表される奥深い歴史や、海と山が織りなす豊かな自然環境について熱意を持って説明しました。さらに、海外の方からの関心が非常に高い伊賀市の「忍者」について紹介すると、多くの方が身を乗り出して強い興味を示してくださり、三重県の持つ多彩な魅力とポテンシャルの高さを肌で感じるすることができました。



② F1でのインバウンド対応と交流（活動期間：3月27日～3月29日）

帰国後は、鈴鹿サーキットにて開催された F1 日本グランプリにおいて、連日多くの外国人来場者への案内および接客業務を担当しました。直前のニューヨーク一人旅という多様性のるつぼで培った「物怖じせずに自ら働きかける積極性」と「相手の文化的背景を尊重する柔軟なコミュニケーション能力」を最大限に活かし、お客様の要望に対するサービスや、迷っている方への英語でのサポートなど、自分の強みを活かしたホスピタリティに努めました。

また、より深い相互理解を目指した自主的な国際交流の場を企画しました。レース最終日の夜には、サーキットでの交流を通じて意気投合したアメリカ、イタリア、オーストリアなど多国籍な15名を、地元の焼肉店へと案内しました。三重県産の高品質なお肉を共に味わいながら、3日間の出来事やそれぞれの母国の文化について語り合いました。この交流を通じて、言葉の壁を越えた連帯感が生まれ、「三重での体験が日本旅行の中で最高の思い出になった」との声をいただきました。地域の食文化をハブに、国境を越えた深い信頼関係を築けたことは、インバウンド対応における「食」と「対話」の有効性を実証する、極めて有意義な経験となりました。



3. 活動の成果と気づき

今回の活動を通して、以下の3つの大きな成果と気づきを得ることができました。

・「食」と「文化」が持つ力

ニューヨークの街角で提供したお菓子が現地の方々に笑顔をもたらしたこと、そして F1 後の焼肉で15名もの外国人と深い絆を築けた経験から、「食」は言語の壁を容易に越える最強のコミュニケーションツールであると感じました。地域の歴史や背景を説明する際、その土地の味覚を共有することは、相手の興味を引き出す有効な入り口となります。三重県の豊かな食文化は、国際交流において強力な武器になると実感しました。

・「能動的な姿勢」が生む交流の広がり

相手が来るのを待つのではなく、自ら笑顔で声をかけ、パンフレットを手渡し、時には食事に誘うといった「自ら一步踏み出す勇気」が、結果として予想を上回る深い交流を生み出しました。こうした主体性を積み重ねることが、言葉の壁や物理的な距離を超え、三重県の魅力を相手の記憶により良く刻み込むための一つの手段であると思いました。

・「内」と「外」の多角的な視点による再発見

海外の地で三重の魅力を「届ける（アウトバウンド）」経験と、地元で世界中のゲストを「迎える（インバウンド）」経験を短期間に両立できたことは非常に有意義でした。外からの視点を持ったことで、私たちが日常として当たり前と感じている三重の自然、伝統、そして細やかなホスピタリティが、世界水準で見ても極めて高いポテンシャルを秘めていることを再認識しました。



4. 今後の抱負

どのような場所であっても先入観を持たずに行動する柔軟性と、自分の言葉で誠実に語りかける発信力を持ち続けることが、私の考えるグローバルなあり方です。思考や行動をアップデートし続ける姿勢を大切に、地域の魅力と世界の人々を繋ぐ「架け橋」となれるよう、みえグローバル学生大使として今後も主体的に活動していきます。

5. 謝辞

今回の活動にあたり、多大なるサポートをいただきました三重県関係者の皆様、そして現地で温かく交流して下さった世界各国の方々に、心より感謝申し上げます。